

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：32645

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23659269

研究課題名(和文) 医学部・看護学部学生の職業意識と専門性に関する探索的研究

研究課題名(英文) Work values and professionalism of medical and nursing school students

研究代表者

菰田 孝行 (Komoda, Takayuki)

東京医科大学・医学部・助教

研究者番号：80532704

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：医療職志望者の職業意識と専門性について、医学部および看護学部学生を対象にした質問紙調査を実施した。因子分析の結果、職業意識および専門性のそれぞれの構造を明らかにし、尺度を作成した。医療職者の発達モデルの構築までには至らなかったが、代表的な医療職である医師と看護師の志望者の職業に関する意識構造を明らかにしたことで、一定の成果は得られたと考える。

研究成果の概要(英文)：Work values and professionalism of the medical profession aspirant, I conducted a questionnaire survey of medical and nursing school students. The results of factor analysis, to clarify the structure of each of the work values and professionalism, I have created a scale. But I could not come to a build up of the development model of the medical profession's, but I was determined to clear conscious structure on occupational value of doctors and nurses is a medical profession typical.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：職業意識 専門性 医療職志望者

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究で取り上げるテーマは、医療職志望者の「職業意識」と「専門性」である。まず「職業意識」では、職業意識に関する先行研究は多い。例えば菰田(2000)は、職業価値観として、自己価値、社会的評価、労働条件、人間関係、組織からの独立の5因子を抽出している。また、山中・安達(2009)は、医療系専攻学生を対象にした調査から、職業価値観として、やりがい、自己成長、人間関係、安定性の4因子を抽出している。しかしながら、職業意識に関する研究の多くは、一般の大学生を対象にしたものが多く、医療職者を対象にした研究は少ないのが現状である。そこで本研究では、医療職志望者を対象とした「職業意識」について取り上げる。

(2) さらに「専門性」では、森田(2006)がプロフェッション(Profession)を「専門性」と翻訳し、利他主義、自律性、知識・技能の習得と発展、資格による権威づけ、仕事仲間との連携の5因子を抽出し、尺度を構成している。この尺度は一般的な専門職を対象にしており、医療職者に限った研究も報告されていない。そこで本研究では、医療職志望者を対象にした「専門性」について取り上げる。

(3) 医療者としての職業意識や専門性は、大学に入学してからの専門教育によって醸成されていく。医療職志望者の職業意識や専門性を明らかにし、大学での教育を通じて発達の観点から検討を加える。

2. 研究の目的

(1) 医学部と看護学部の学生を対象に「医療職者としての職業意識」を明らかにする。職業意識に関する先行研究は多いが、大部分は一般の大学生を対象にしたものであり、医療職志望者の職業意識を反映していない。そこで本研究では、医療職志望者を対象にした「職業観」を測定するための尺度を開発する。

(2) 医学部と看護学部の学生を対象に「専門職としてのキャリア意識形成過程」を探索する。専門性に関する先行研究でも、医療職志望者を対象にしたものはごくわずかである。医療職志望者の専門性を明らかにし、発達の観点から検討を加える。

3. 研究の方法

(1) 医療職志望者の職業意識と専門性を明らかにするために、質問紙調査を実施した。対象者は、調査協力を得られた全国の医学部生448名、看護学部学生372名である。2013年5月から9月まで、調査者が授業に出向き、授業中に調査を実施し、原則としてその場で回収した。しかしながら、記入時間が足りないなどの理由から、後日に回収した調査用紙もある。

調査用紙には、職業意識に関する60項目、専門性に関する45項目をそれぞれランダムに配置した。回答に要した時間は15分から20分であった。なお、本調査は、東京医科大学医学研究倫理委員会の承認を受け、東京医科大学学長の許可を得て実施した。

(2) 職業意識の調査内容は、菰田(2006)および山中・安達(2009)などの先行研究を参考に、職業価値観に関する項目を作成した。評定は「とてもこだわる」から「まったくこだわらない」までの4件法で尋ね、各々4~1点を配した。

専門性の調査内容は、森田(2006)および宮内(2008)などの先行研究を参考に、医療職者の専門性に関する項目を作成した。評定は「あてはまる」から「あてはまらない」までの4件法で尋ね、各々4~1点を配した。

4. 研究成果

(1) 医療職者に特化した職業意識尺度を作成するため、分析は医学部生と看護学部生のデータを合算して行った。

まず、弁別力のある項目を選択するために、分布の偏りのある項目を検討したが、不適切な項目はみつからなかった。次に、職業意識の構造を明らかにするために、因子分析を行った(主因子法・プロマックス回転)。固有値が1以上であった5因子解において、因子負荷量.40以上の項目を採用した。最終的に第1因子15項目、第2因子12項目、第3因子10項目、第4因子8項目、第5因子6項目の計51項目を選択した。

第1因子は、人から信頼される、人を助けることができるなど、他者からの評価に重きをおいた内容であり、「やりがい」と命名した。第2因子は、自分の能力が生かせる、自分の可能性が広がるなど、自分の成長に重きをおいた内容であり、「自己成長」と命名した。第3因子は、職場での信頼関係、チームでの一体感など、職場での人間関係に重きをおいた内容であり、「人間関係」と命名した。第4因子は、給料が高い、資格職であるなど、経済的、社会的な安定性に重きをおいた内容であり、「安定性」と命名した。第5因子は、社会貢献ができる、社会で認められるなど、社会的な評価に重きをおいた内容であり、「社会的評価」と命名した。

尺度の信頼性を示す係数は、第1因子に採用された15項目からなる下位尺度で.88であった。同様に、第2因子12項目で.80、第3因子10項目で.77、第4因子8項目で.75、第5因子6項目で.70であり、十分に信頼できる値であった。

医学部生と看護学部生を別々にし、同様の分析を行ったが、結果に差異は見られなかった。医療職者に特化した職業意識尺度を作成する目的から、医学部生と看護学部生のデータを合算して行った分析を結果として採用した。

(2) 次に、医療職者に特化した専門性尺度を作成する。同様に、分析は医学部生と看護学部生のデータを合算して行った。

弁別力のある項目を選択するために、分布の偏りのある項目を検討したが、不適切な項目はみつからなかった。次に、専門性の構造を明らかにするために、因子分析を行った(主因子法・プロマックス回転)。固有値が1以上であった5因子解において、因子負荷量.40以上の項目を採用した。最終的に第1因子12項目、第2因子10項目、第3因子8項目、第4因子6項目、第5因子5項目の計41項目を選択した。

第1因子は、自分の考えで仕事ができる、自分の判断が尊重されるなど、自分で仕事を進めていることを示す内容であり、「自律的志向」と命名した。第2因子は、チームでの仕事、仲間との信頼関係など、他者との連携の重要性を示す内容であり、「連携主義」と命名した。第3因子は、他者の支援、社会へのメリットなど、他者の利益に貢献することを重視する内容であり、「利他主義」と命名した。第4因子は、資格がある、社会的な地位が高いなど、社会的な権威を重視した内容であり、「権威志向」と命名した。第5因子は、生涯勉強を続ける、自己成長を続けるなど、学卒後の学習や仕事上での成長を継続していくことを重視する内容であり、「発展志向」と命名した。

尺度の信頼性を示す係数は、第1因子に採用された12項目からなる下位尺度で.85であった。同様に、第2因子12項目で.80、第3因子10項目で.79、第4因子6項目で.71、第5因子5項目で.68であり、第5因子ではやや値が落ちるが、それでも十分に信頼できる値であったといえるだろう。

医学部生と看護学部生を別々にし、同様の分析を行ったが、結果に差異は見られなかった。医療職者に特化した職業意識尺度を作成する目的から、医学部生と看護学部生のデータを合算して行った分析を結果として採用した。

(3) 職業意識の特徴を明らかにするため、下位尺度ごとの分析を実施した。

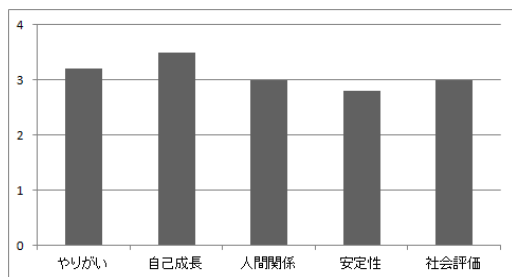


図1 職業意識の各下位尺度の項目得点

尺度得点は、下位尺度に含まれる項目を単純加算し、項目数で除した得点を用いた。職業意識において、どの内容に重きをおいているかを概観した。結果を図1に示す。

最も得点が高かったのは自己成長であった。最も得点が低かったのは安定性であった。しかしながらその差はわずかであり、有意な差があったとはいえない。どの項目も医療職者として重要な項目であり、取捨選択が難しかった状況が予測される。

(4) 同様に、専門性の特徴を明らかにするため、下位尺度ごとの分析を実施した。尺度得点は、下位尺度に含まれる項目を単純加算し、項目数で除した得点を用いた。職業意識において、どの内容に重きをおいているかを概観した。結果を図2に示す。

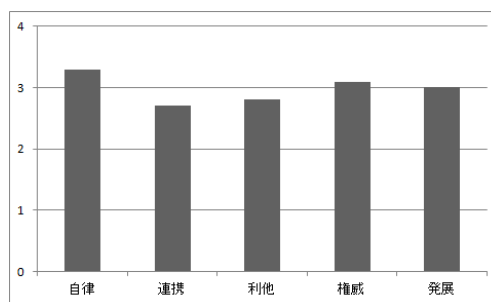


図2 専門性の各下位尺度の項目得点

最も得点が高かったのは自律的志向であった。最も得点が低かったのは連携主義であった。しかしながらその差はわずかであり、有意な差があったとはいえない。

(5) 職業意識と専門性の相関を算出したところ、職業意識の「自己成長」と専門性の「発展志向」、職業意識の「やりがい」および「社会的評価」と専門性の「利他主義」の間に有意な相関がみられた。自己成長と発展性は、共に自己の価値に重きをおく志向性をしている。また、やりがい、社会的評価と利他主義は共に世間や社会に重きをおく志向性を示している。

医療職者は専門職の代表的職種といえ、専門性を維持するためには学卒後も生涯にわたる学習が必要とされる。自己の成長や発展を継続させることをいとわない者が選択している職種であることを示していると予測される。

さらに、医療職は、患者と関わる職業であり、社会との接触が密接な職種であるともいえる。さらに、社会的な地位も比較的高く、社会から認められている職種であるともいえる。

自己価値と社会的な価値の両方を追求する医療職志望者の特徴が示された結果であると考えられる。

(6) 本研究の大きな成果は、医療職者に特化した職業意識、専門性の構造を明らかにし、

それを測定するための尺度を開発したことである。キャリア意識の形成過程の解明については、ごく一部に手がつけられたにすぎない。さらには、研究の対象は、医師と看護師を志望するものに限られた。医療現場におけるコメディカルの活躍の場は広がっており、この先、多くの職種との連携が求められることは必須である。今後、作成された尺度を使用し、例えば薬剤師など、医療職志望者の職業意識および専門性の解明を積極的に進めていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計1件)

菰田孝行、阿部幸恵、大滝純司、冷水育、三好和子、医師の進路決定に関わる要因、第43回日本医学教育学会大会、2011年7月23日、広島国際会議場

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菰田 孝行 (komoda, Takayuki)

東京医科大学・医学部・助教

研究者番号：80532704

(2) 連携研究者

阿部 幸恵 (Abe, Yukie)

東京医科大学・医学部・教授

研究者番号：20449218

大滝 純司 (Otaki, Junji)

北海道大学大学院・医学研究科・教授

研究者番号：20176910